

# 令和7年度（2025年度）熊本県献血推進協議会

日 時：令和8年（2026年）2月16日（月）

午後1時30分から午後3時まで

場 所：熊本県赤十字血液センター3階大ホール

## 次 第

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 議 事

### （1）報告事項

令和7年度（2025年度）献血実績等について（資料1）

血液製剤の供給状況について（資料2）

血液事業の現状について（資料3）

### （2）協議事項

令和8年度（2026年度）熊本県献血推進計画（案）について（資料4）

### （3）その他

- 4 閉 会

令和7年度(2025年度)熊本県献血推進協議会委員名簿

氏名	所属等	備考
荒川 知章	熊本県議会厚生常任委員会 副委員長	
荒木 ミドリ	熊本県地域婦人会連絡協議会 会長	欠席
石橋 素子	公益社団法人熊本県栄養士会 副会長	
伊津野 輪子	ライオンズクラブ国際協会 337-E 地区 (熊本県ライオンズクラブ献眼・献腎・献血運動協力会 専務理事)	
猪本 伸子	公益社団法人熊本県看護協会 理事	
内場 光浩	熊本大学病院輸血・細胞治療部副部長(講師)	
江上 寛	公益社団法人熊本県医師会 理事	
鬼塚 克佳	熊本県学生献血推進協議会 会長	
川畑 愛子	熊本県PTA連合会 理事	
木村 敬	熊本県知事	木脇医監 代理出席
寺本 幸	一般社団法人熊本青年会議所 副理事長	
中川 粹子	熊本県私立中学高等学校協会	
林 将孝	熊本市健康福祉局長	横山医療対策 副課長代理出席
原田 奈穂子	独立行政法人国立病院機構熊本医療センター 臨床検査部長	
福島 ゆかり	公益社団法人熊本県薬剤師会 常務理事	
山崎 浩	熊本市立熊本市民病院 血液・腫瘍内科 部長	

(任期:令和9年7月31日まで)(敬称略、五十音順)

薬務衛生課	飯野薬務衛生課長、三隅審議員、濱田主幹、鍋田主任技師
日赤熊本県支部	田中事業推進課長
血液センター	米村所長、早川事業部長、淵上総務課長、仁田尾献血推進課長、石原学術情報・供給課長、狩野採血課長、渡邊医務課長

# 令和7年度（2025年度） 献血実績等について



献血キャラクター  
けんけつちゃん



© 2010熊本県くまモン

熊本県健康福祉部健康局薬務衛生課

# 血液事業の推移

昭和39年「献血の推進について」の閣議決定

国及び地方自治体、日本赤十字社、地域団体などが献血の推進に取り組み、国民の理解と協力に支えられてきた。

平成15年「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」の施行

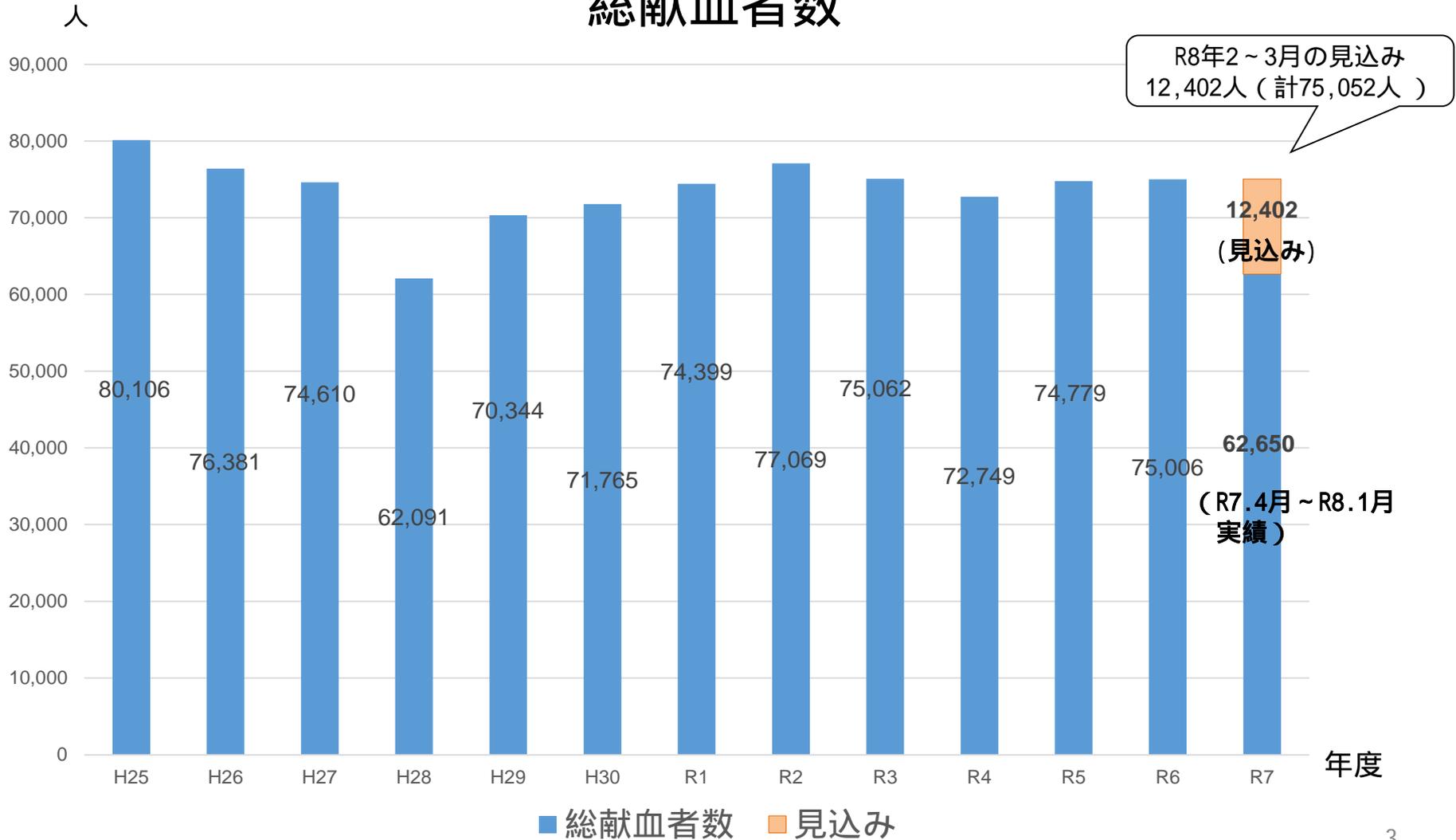
血液製剤の安全性の向上、安定供給の確保及び適正使用を柱とし、国・自治体等の役割分担が明確化。

都道府県における**献血推進計画の策定**が義務付けられた。



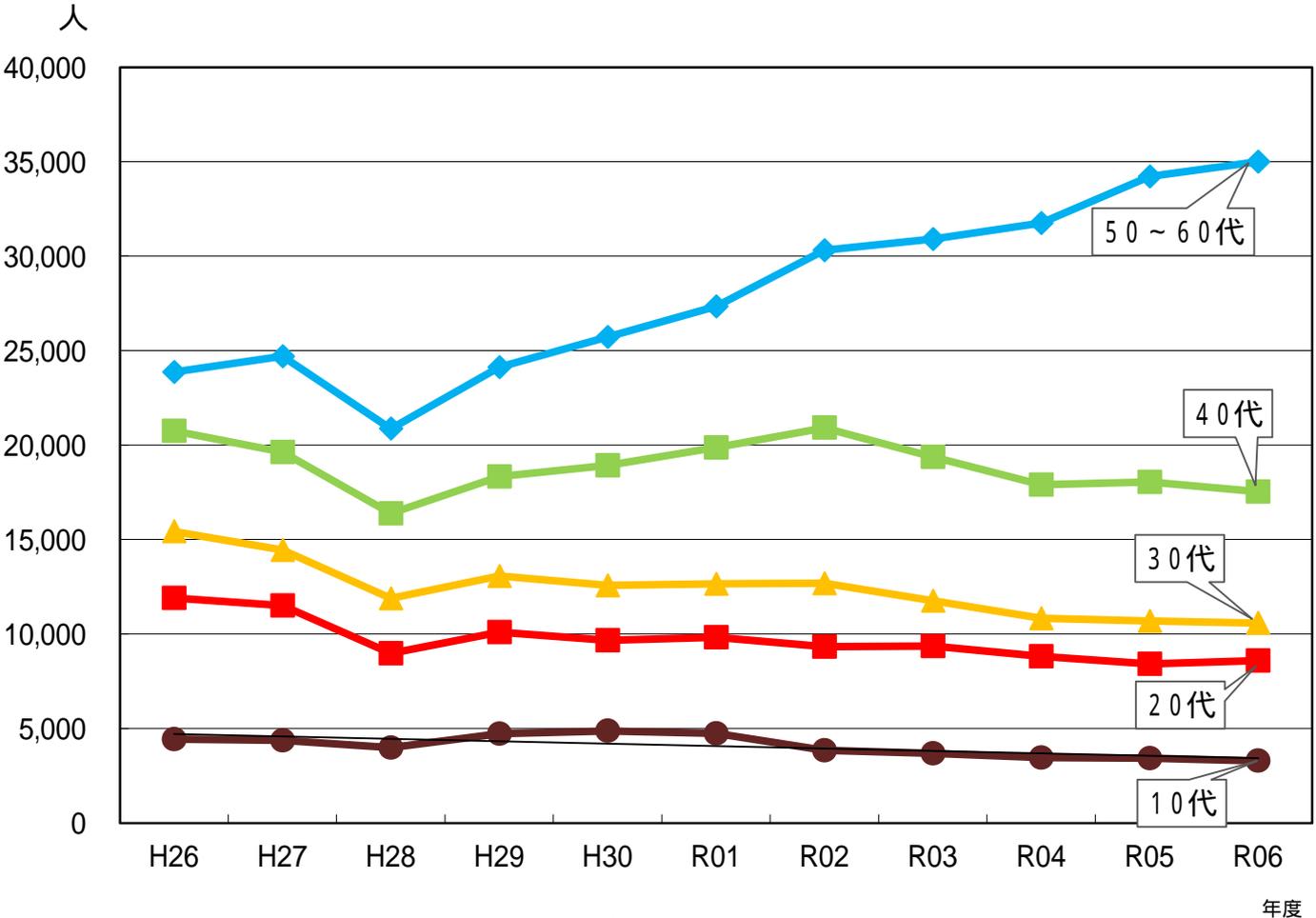
# 献血の現状

## 熊本県における献血者数の推移 総献血者数



# 献血の現状

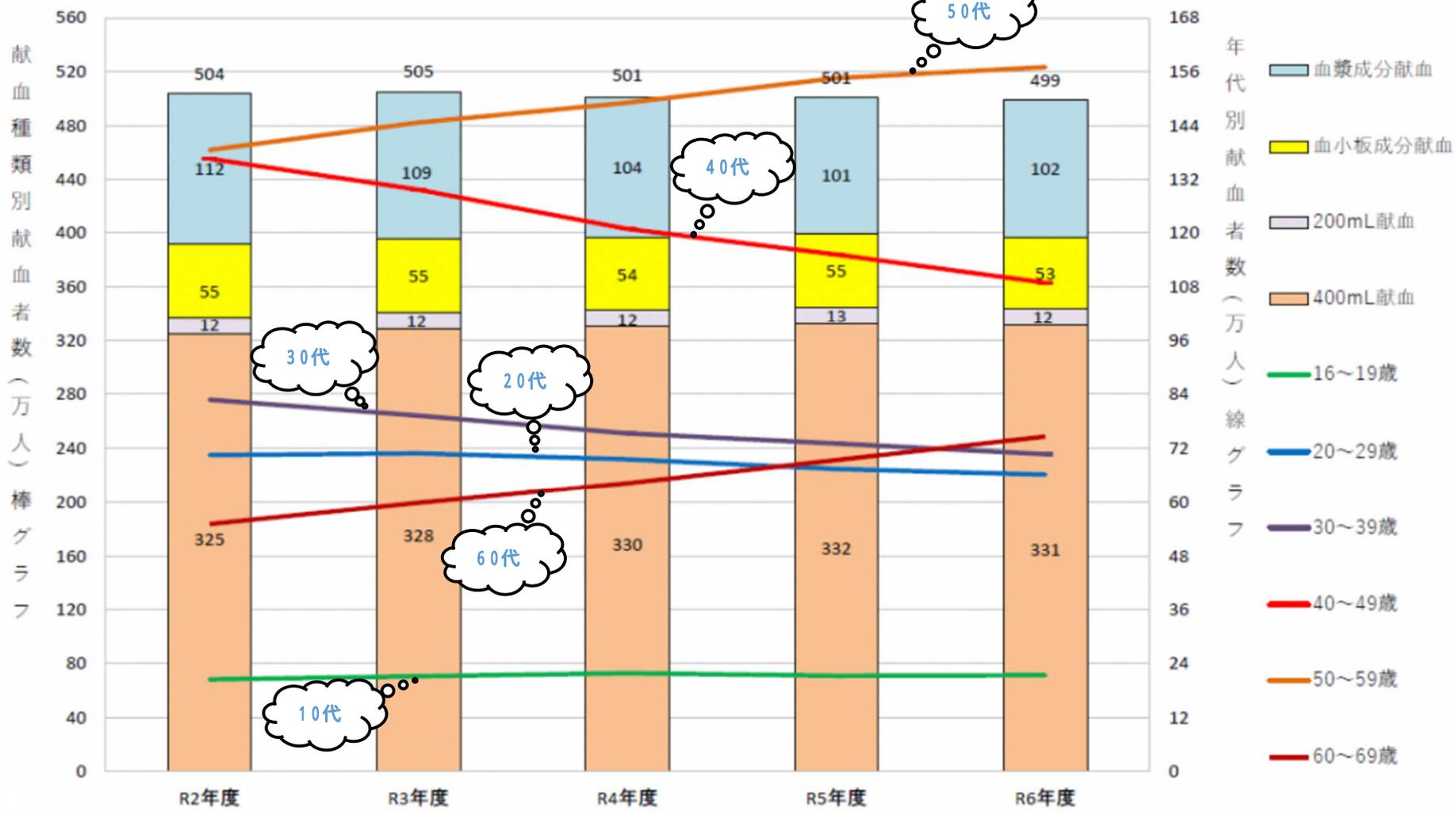
## 熊本県における年代別献血者数の推移



50代、60代を除き全体的に減少傾向  
増加傾向にあった40代も減少に転じた

# 献血の現状

献血者数の推移（全国）

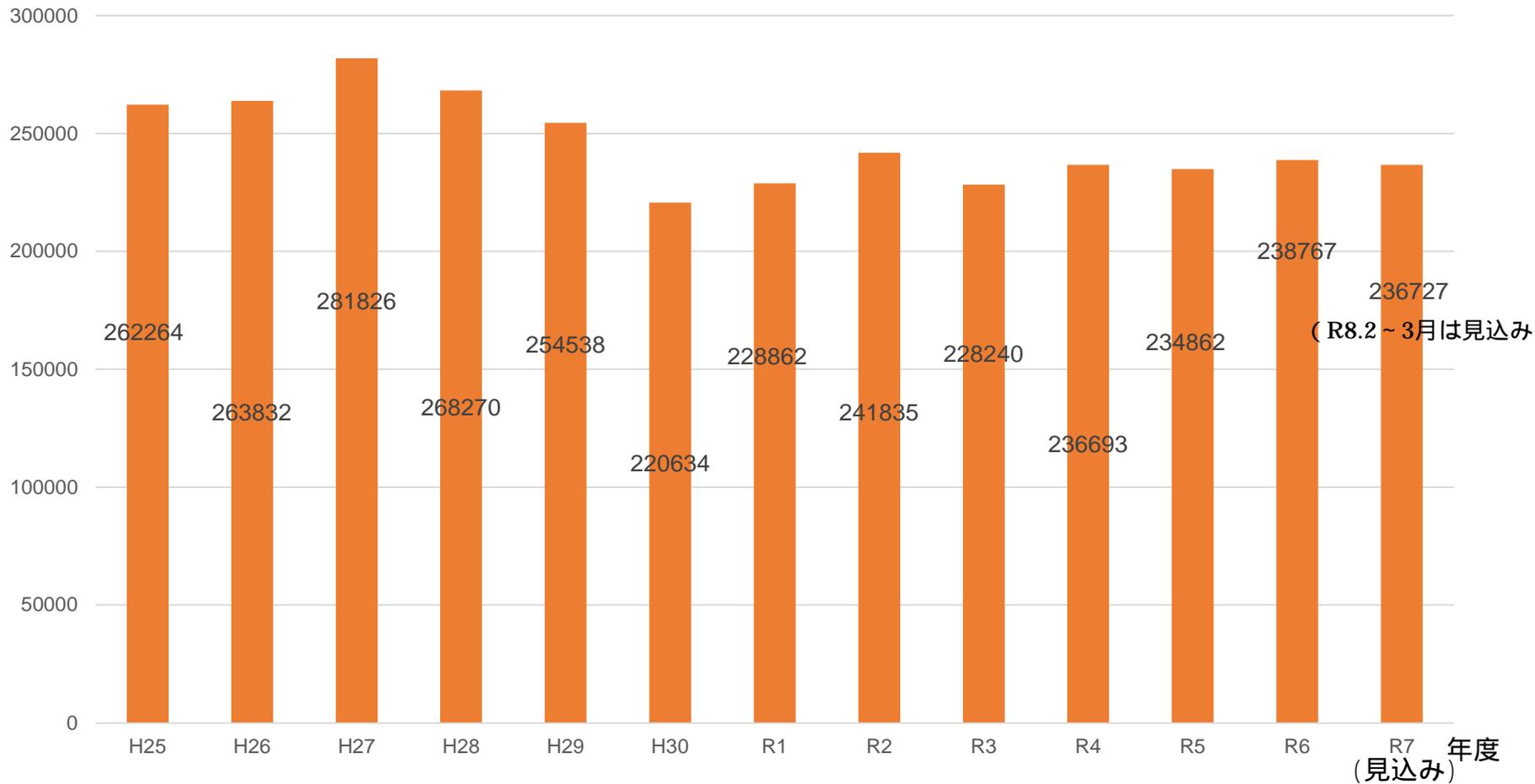


出典：日本赤十字社ホームページ

# 血液製剤の供給状況

## 県内の血液製剤供給状況の推移

単位



# 献血推進 2025

「**献血推進2025**」: 令和3年度から令和10年度までの献血推進目標を設定し、献血の推進を図っていく。

項目	目標	令和10年度 目標 (全国)	令和6年度 実績 (全国)	令和6年度 実績 (熊本)
若年層の献血 者数の増加	10代の献血率を増加させる。	6.6%	4.7%	5.1%
	20代の献血率を増加させる。	6.8%	5.2%	5.6%
	30代の献血率を増加させる。	6.6%	5.2%	6.1%

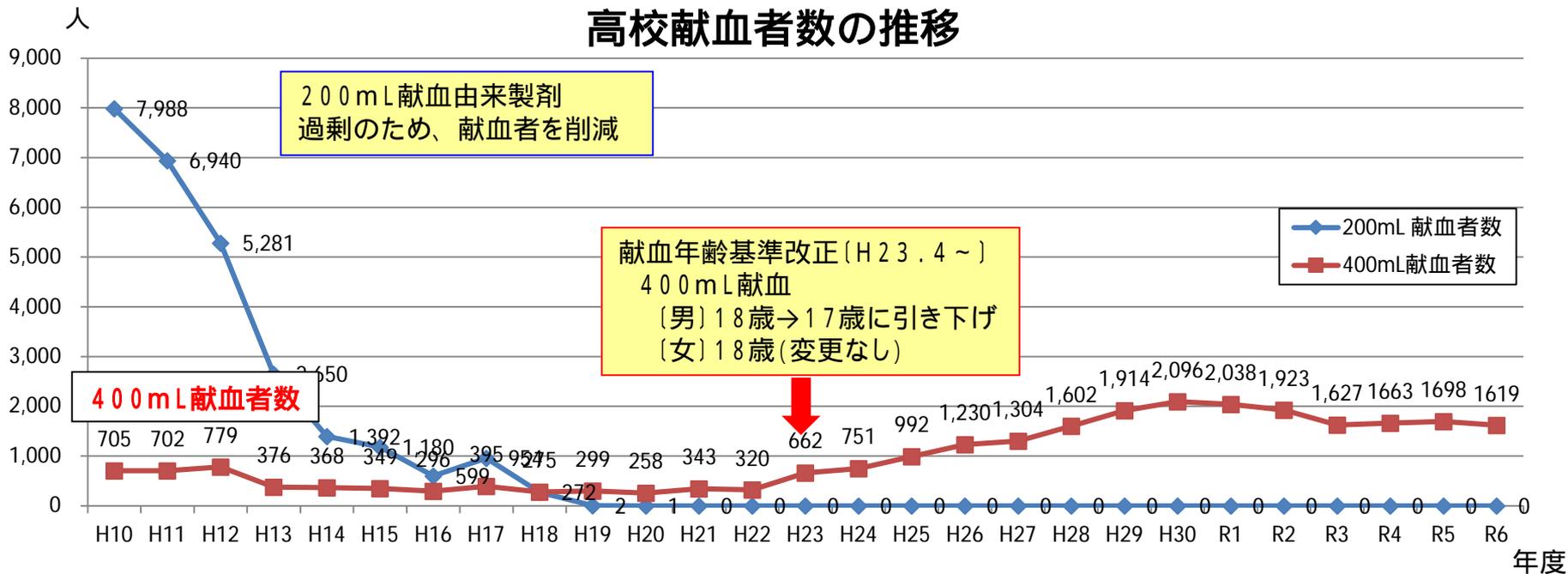
目標の定義: 若年層(16才~39才)の人口に対する献血者数の割合(献血率)

# 令和7年度（2025年度） 熊本県献血目標数及び献血者数

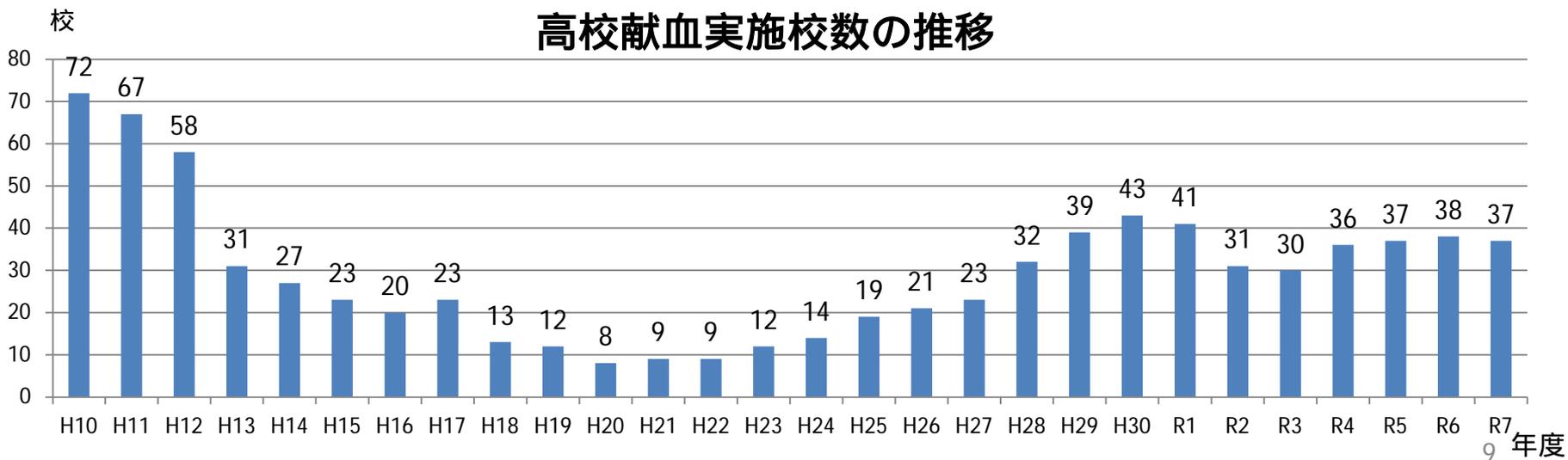
献血の種類	目標(人)	R8年1月末 実績(人)	年度末 見込み(人)	達成率 見込み
200mL	611	576	677	111%
400mL	52,000	43,888	52,533	101%
血漿成分	14,091	10,886	13,163	93.4%
血小板成分	8,341	7,300	8,679	104%
合計	75,043	62,650	75,052	100%

# 高校献血の実施状況

## 高校献血者数の推移



## 高校献血実施校数の推移



# 高校における献血セミナー実施状況

平成23年度以降、県内の全高等学校に対し、献血に関する正しい知識の普及及び献血協力者増加を目的とした献血セミナー（献血出前講座）の活用について依頼し、保健所ごとに各高等学校を訪問。

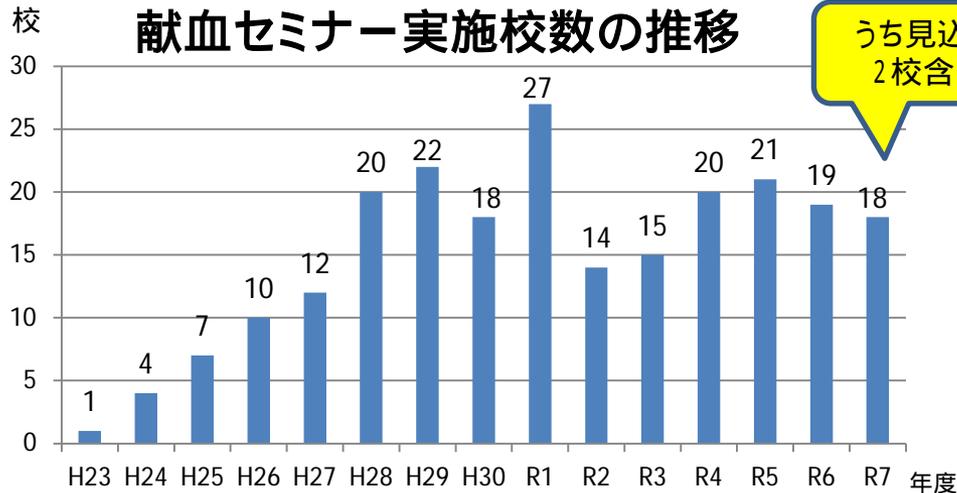
セミナー内容：40～60分程度。（事前に学校の要望を伺い内容決定。）

## 【基本構成】

スライドによる説明：（30分～）

- ・ 献血の基礎知識...献血の種類や基準及び必要な理由、輸血用血液製剤の使われ方
- ・ 献血の現状
- ・ 献血の不安要素...痛い？所要時間は？どこで出来る？ 等

啓発DVD鑑賞：（10分～）



# 愛の血液助け合い運動（7月）

県、熊本県赤十字血液センター及び市町村との連携により、各種媒体を活用し、集中的に広報活動を行った。

◆ ポスターの掲示、市町村広報誌等への掲載  
（ポスター送付先：市町村等106か所）

◆ テレビ・ラジオでの広報

- ・ 県政広報テレビ番組  
「県からのお知らせ」
- ・ 県政広報ラジオ番組  
R K K 「ふれあいくまもと」  
F M K 「県庁ダイアリー」



# はたちの献血キャンペーン（1月・2月）

新たに二十歳を迎える若者を中心とした県民各層に対し、献血意識の啓発を行う。

- ◆ ポスターの掲示、市町村広報誌等への掲載（ポスター送付先：大学等計133か所）
- ◆ 県庁地下通路展示ケースでの展示（啓発パネルの展示）
- ◆ テレビ・ラジオでの広報（県政広報テレビ・ラジオ番組）
- ◆ 二十歳の集い等（記念式典）での献血呼びかけ（市町村への啓発チラシ配布）



# 若年層対策

## ◆ SNSを活用した広報

県公式SNS「気になる！くまもと」に、若年層啓発動画を掲載



## ◆ 大学等における献血推進

学園祭等において啓発資材を配布

## ◆ 高等学校等における献血推進

- ・ライオンズクラブ、市町村等と連携し、高校等に協力依頼を実施
- ・私立高等学校校長会において、学校献血等へ協力を依頼（6/13,7/17）

## ◆ 小中学校における献血推進

様々な機会を捉え啓発資材を配布

## ◆ 啓発資材の作成

令和7年度は熊本県学生献血推進協議会と連携して啓発資材を作成

# ボランティア組織等との連携

## ◆ 各種ボランティア組織との連携

- ・ライオンズクラブ等各種団体と協力し献血の啓発を実施
- ・ライオンズクラブ献眼・献腎・献血運動推進研修（10/7）  
及び理事会への出席

## ◆ 市町村との連携

- ・献血担当者研修会の開催（9/2）

## ◆ 保健所毎の献血推進会議の開催

- ・県内10保健所毎（一部合同）に開催（2月下旬～3月）



# 表彰等事業の推進

厚生労働大臣表彰状及び感謝状伝達式並びに熊本県知事感謝状贈呈式を開催し、一層の献血運動への協力を呼びかけた。(R7.9.2)

- ◆ 厚生労働大臣表彰状贈呈団体 1 団体
- ◆ 厚生労働大臣感謝状贈呈団体 6 団体
- ◆ 熊本県知事感謝状贈呈団体 1 1 団体



# 表彰等事業の推進

## 【厚生労働大臣表彰状贈呈団体】

- ・ 熊本市地域献血推進連合協議会

## 【厚生労働大臣感謝状贈呈団体】

- ・ 天草信用金庫
- ・ 学校法人 加寿美学園  
熊本中央高等学校
- ・ 熊本刑務所
- ・ 株式会社サンテック八代工場
- ・ 株式会社肥後銀行事務センター
- ・ ライオンズクラブ国際協会  
337 - E地区10Z  
御船ライオンズクラブ

## 【熊本県知事感謝状贈呈団体】

- ・ 一般社団法人阿蘇地区建設業協会
- ・ 株式会社荏原製作所熊本事業所
- ・ 社会福祉法人恩賜財団  
済生会みすみ病院
- ・ 一般社団法人熊本県建設業協会  
天草支部
- ・ 熊本県自動車整備工業協同組合  
菊池支部青年部
- ・ 熊本県信用組合協会
- ・ 熊本県水俣警察署
- ・ 国土交通省 九州地方整備局  
八代河川国道事務所
- ・ 特定医療法人 成仁会  
くまもと成仁病院
- ・ 人吉下球磨消防組合
- ・ 山鹿市消防団

# 血液製剤使用適正化の推進

- ◆九州各県合同輸血療法委員会関係者会の開催（R7.8.29）
  - ・医療機関、血液センター、行政の代表者が情報共有・意見交換などを実施【参加人数：40人】
  - ・各県からの活動報告や「輸血用血液製剤の供給危機への対応」について、ワーキンググループから報告が行われた。
- ◆熊本県合同輸血療法委員会の開催（R7.11.15）
  - ・医療機関、血液センター、行政の代表者が情報共有・意見交換などを実施。血液製剤の適正使用を推進。
  - ・委員会を実施（6/9）
  - ・講演会を実施（11/15）
    - 【参加人数 132名、医療機関67施設】
    - 参加者内訳：医師8名、臨床検査技師78名、  
薬剤師5名、看護師33名、その他8名



人間を救うのは、人間だ。

## 資料2

# 血液製剤の供給状況（熊本県）



2026.2.16

熊本県赤十字血液センター  
事業部 学術情報・供給課

## 学術情報・供給課の責務

安全で高品質の血液製剤を迅速にかつ安定的に医療機関へお届けする



### 目次

1. 血液製剤の種類

2. 県内の供給状況

3. 血液センターの供給体制

4. 今後の課題

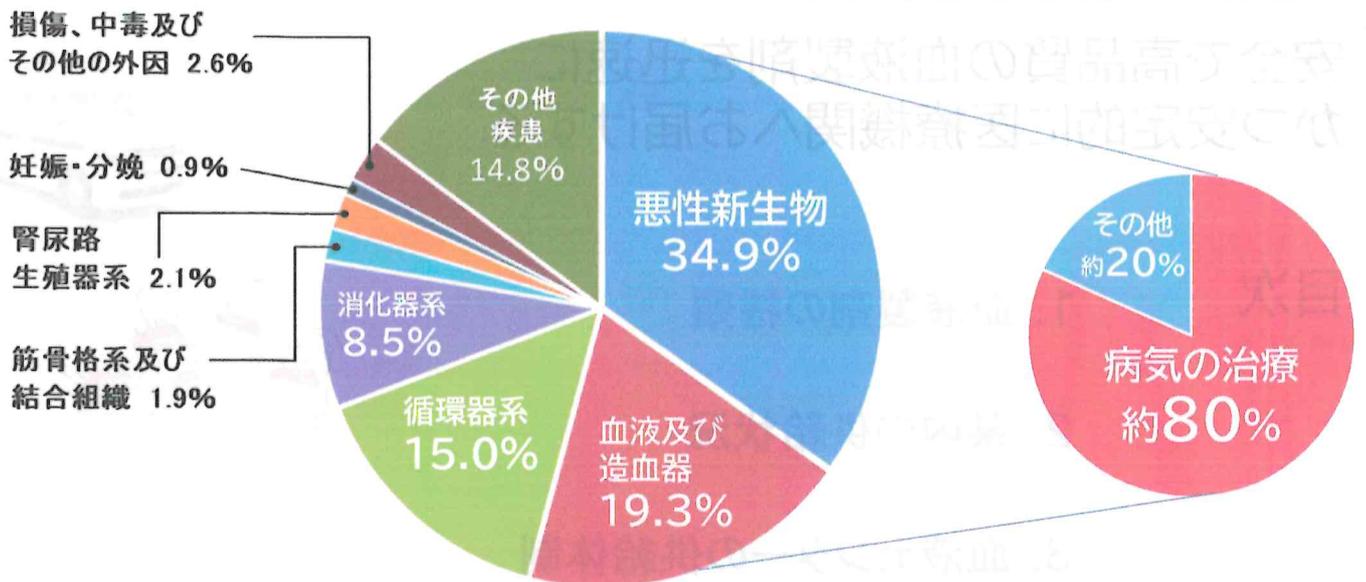


## 輸血用血液製剤の種類

赤血球		保存温度 <b>2~6℃</b> 有効期間 採血後 <b>28日間</b>	出血および赤血球が不足する状態、またはその機能低下による酸素欠乏のある場合に使用される。	《全血献血》  <b>400mL献血</b> <b>200mL献血</b>
血漿		保存温度 <b>-20℃以下</b> 有効期間 採血後 <b>1年間</b>	複数の血液凝固因子の欠乏による出血ないし出血傾向のある場合に使用される。	
血小板		保存温度 <b>20~24℃</b> (要振とう) 有効期間 採血後 <b>6日間</b>	血小板数の減少またはその機能低下による出血ないし出血傾向にある場合に使用される。	《成分献血》 <b>血漿成分献血</b>  <b>血小板成分献血</b>

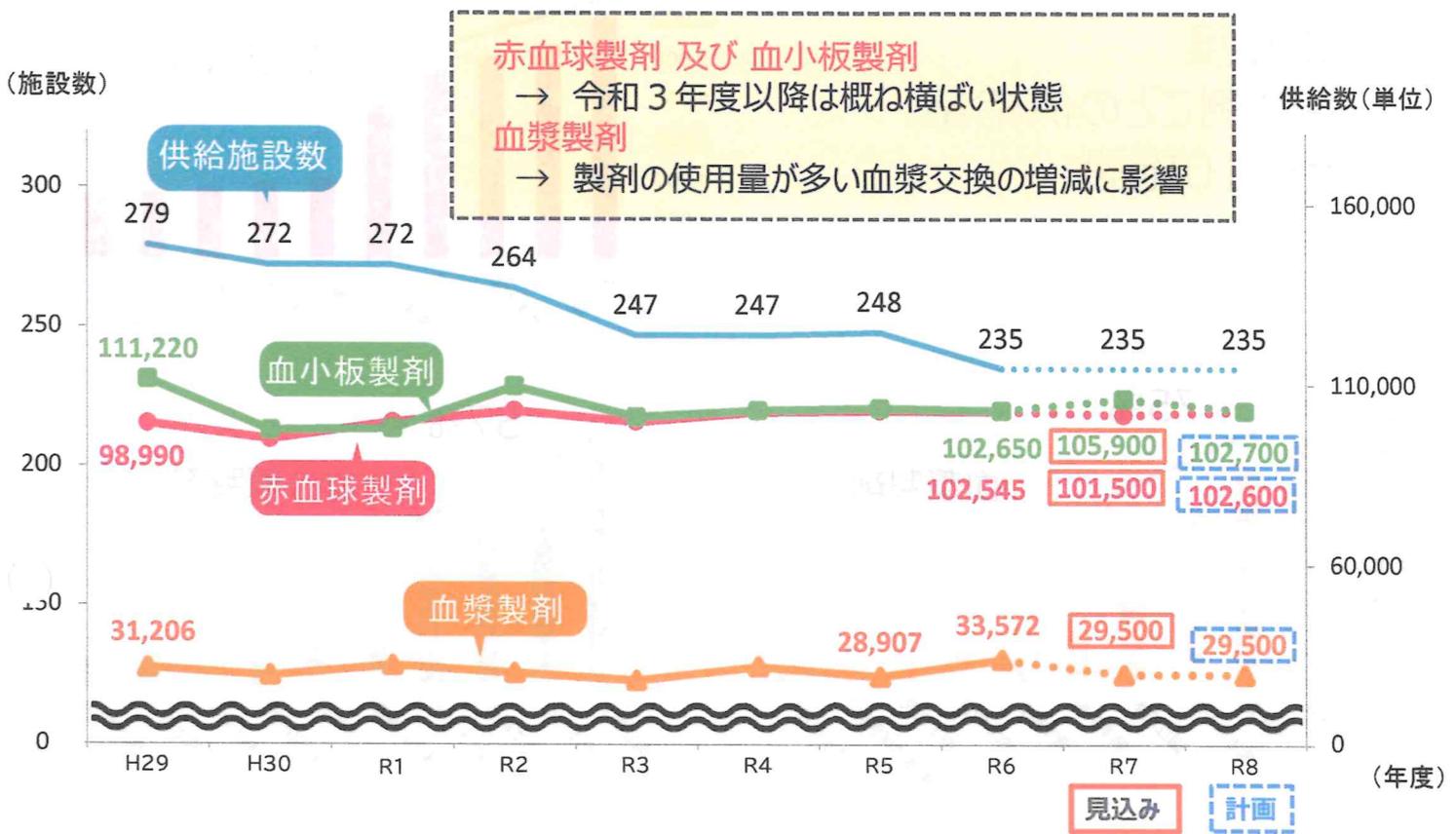
## 2. 県内の供給状況

### 疾病別輸血状況 (令和6年東京都)



輸血用血液製剤の多くは  
がん(悪性新生物)の患者さんの治療に使われています。

## 血液製剤別供給数の推移(熊本県)



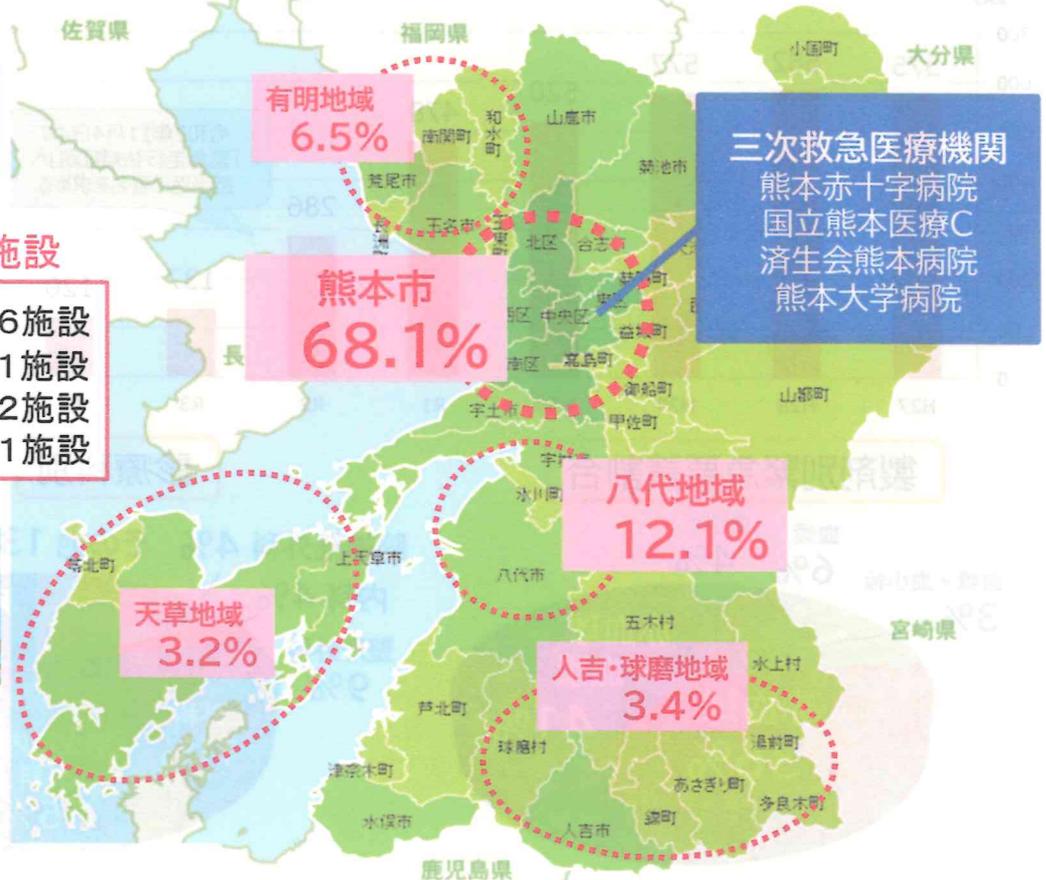
## 県内地域ごと血液製剤の使用割合 (令和6年度)

血液供給施設数

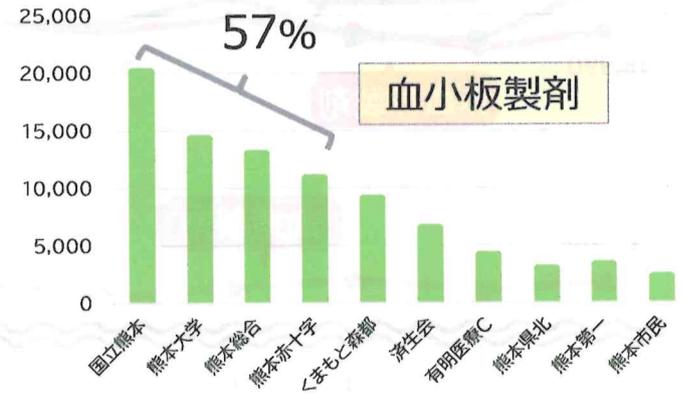
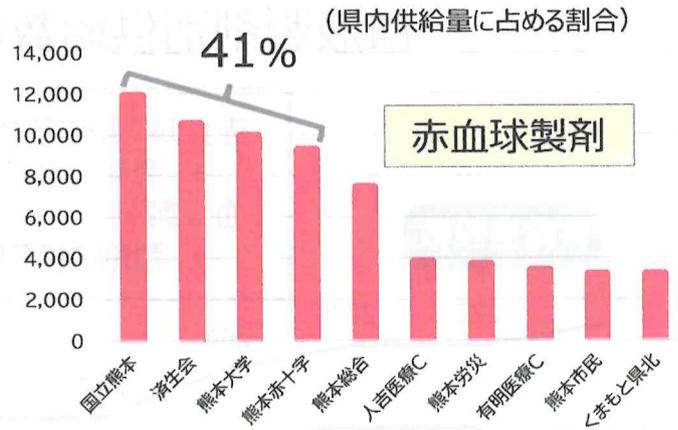
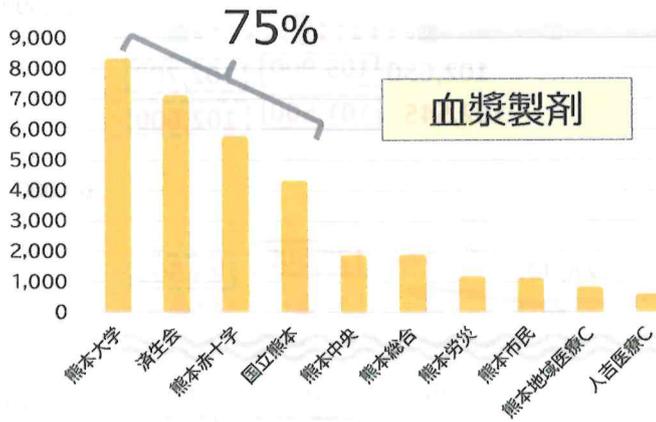
235施設

供給量上位10施設

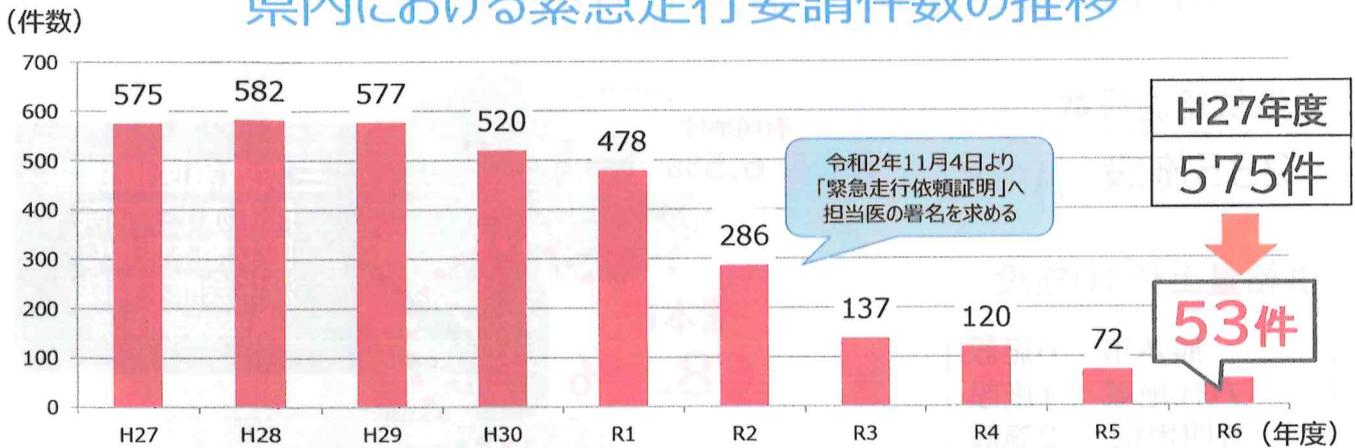
- 熊本市 6施設
- 八代地域 1施設
- 有明地域 2施設
- 人吉・球磨地域 1施設



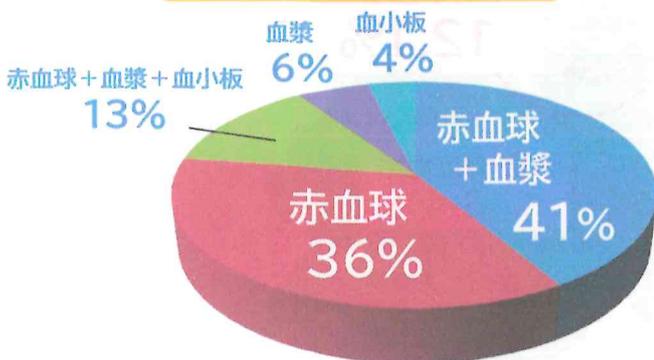
### R6年度 各製剤ごとの供給量 上位10施設



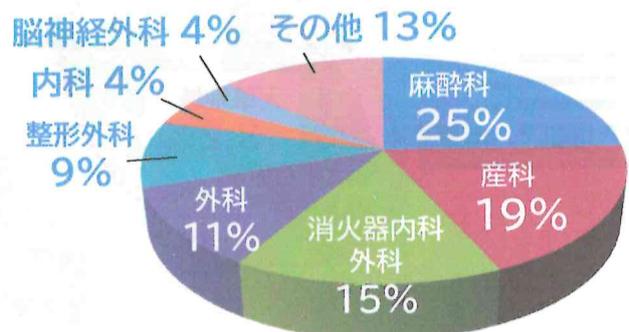
### 県内における緊急走行要請件数の推移



#### 製剤別緊急要請割合



#### 診療科別



## 医療機関からの受注状況、搬送ルート

- 1日（平日）の受注施設  
40～50施設（受注件数 100～130件）
- 定時配送ルート 9～11ルート  
（1便/10時発 2便/14時発 臨時便 緊急走行）
- Web受注率 99.8%（令和8年1月）

- 1日の供給量（平日）200mL単位換算
  - 赤血球製剤 360～400単位**  
400mL献血由来で 180～200人分
  - 血漿製剤 150～200単位**  
400mL献血由来で 約30～50人分  
成分献血由来で 約20～30人分
  - 血小板製剤 300～450単位**  
成分献血由来で 約20～30人分



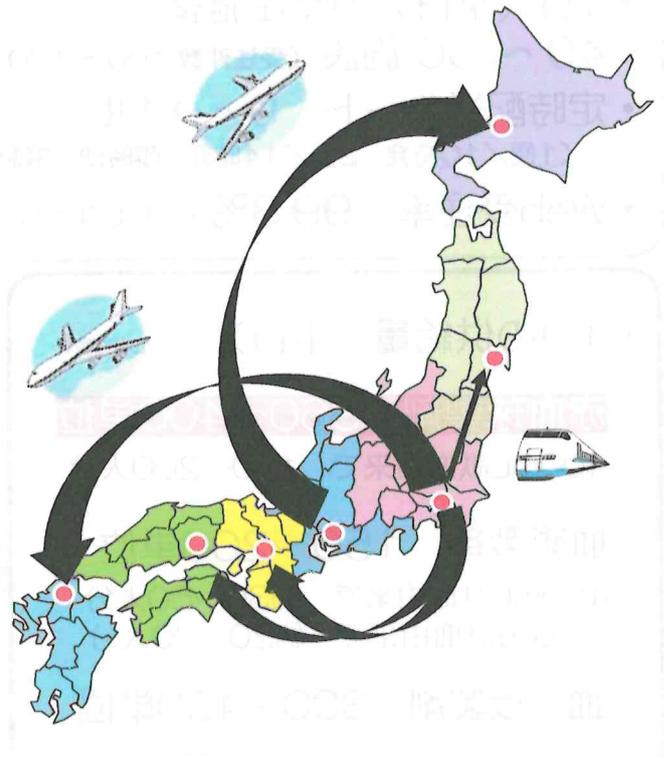
## 血液事業の現勢（全国のブロックセンターと地域センター）（R7.4.1 現在）



## 需給調整業務

同一ブロック内での血液確保が困難な場合については、ブロックを越えた血液の受け渡しを行う。RhD(-)等のまれな血液の全国レベルでの需給調整の他、その他の血液も有効期間が短くならないよう日々調整を行う。

安定した在庫を常に維持するためには、全国的な需給調整を実施することが不可欠！！



## 今後の課題

1. 血液製剤の需要予測の精度向上  
医療機関との情報交換等により需要動向を早期に把握し、  
安定的な供給体制を構築
2. 災害等発生時の血液製剤供給体制の構築  
医療機関との情報共有、院内在庫の適正化等について  
引き続き検討
3. 定時便配送率の向上  
緊急走行や突発的な供給要請に対応できる体制の確保



人間を救うのは、人間だ。

資料3

# 熊本県内における血液事業の現状について



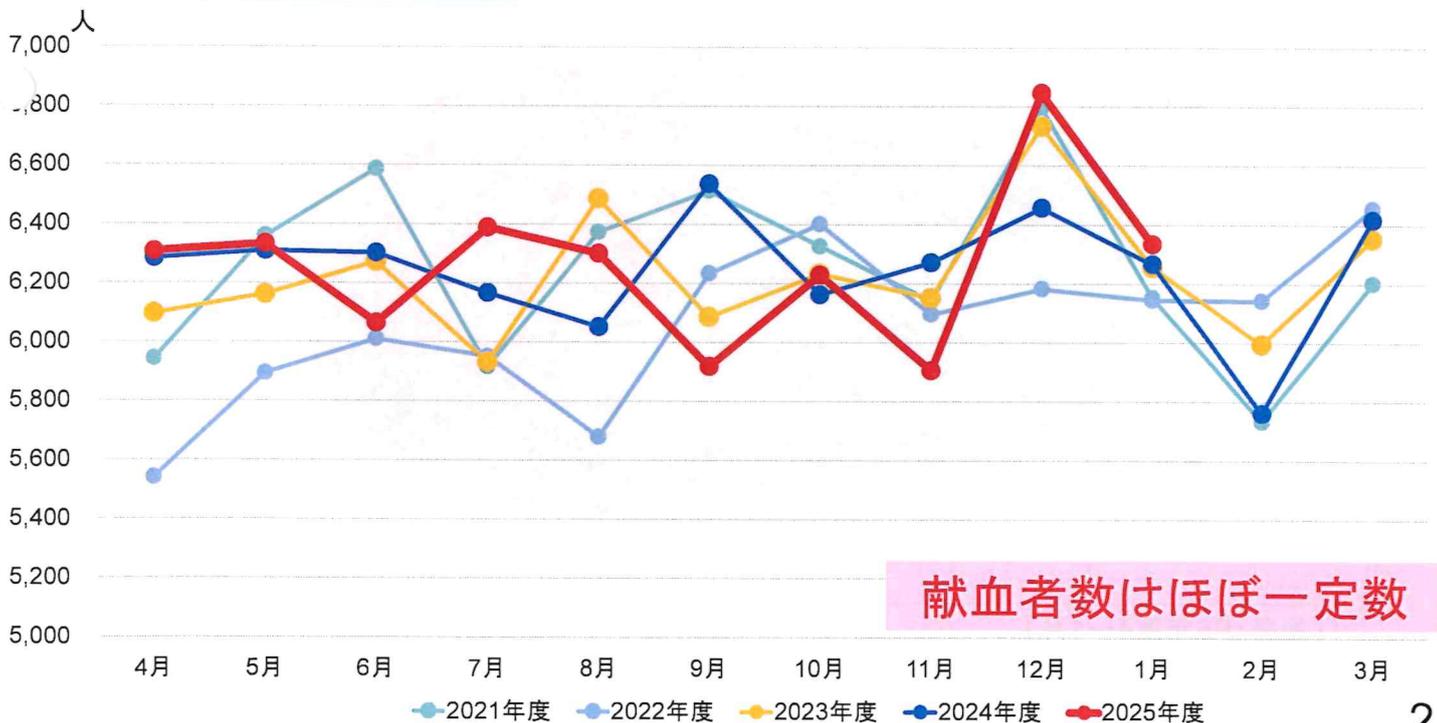
日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society



熊本県赤十字血液センター  
キャラクター

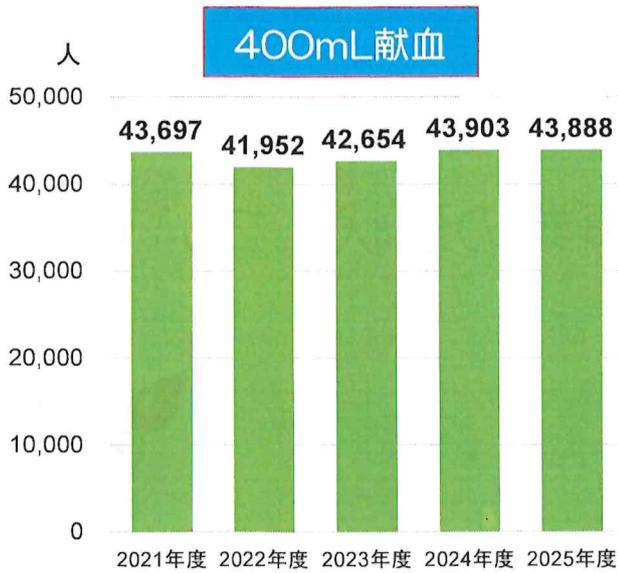
2026.2.16  
熊本県赤十字血液センター  
事業部 献血推進課

## 月別献血者数（県内）



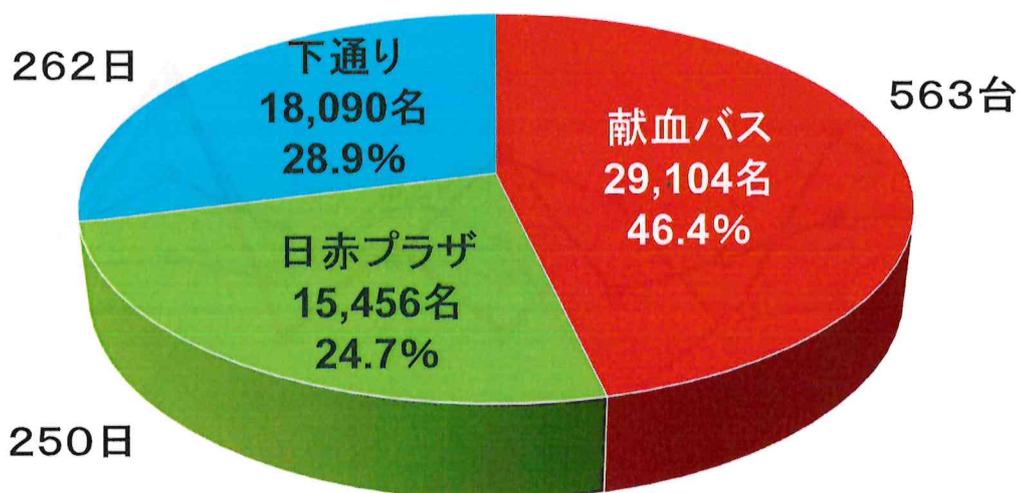
献血者数はほぼ一定数

献血種別での比較（県内：4～1月累計）



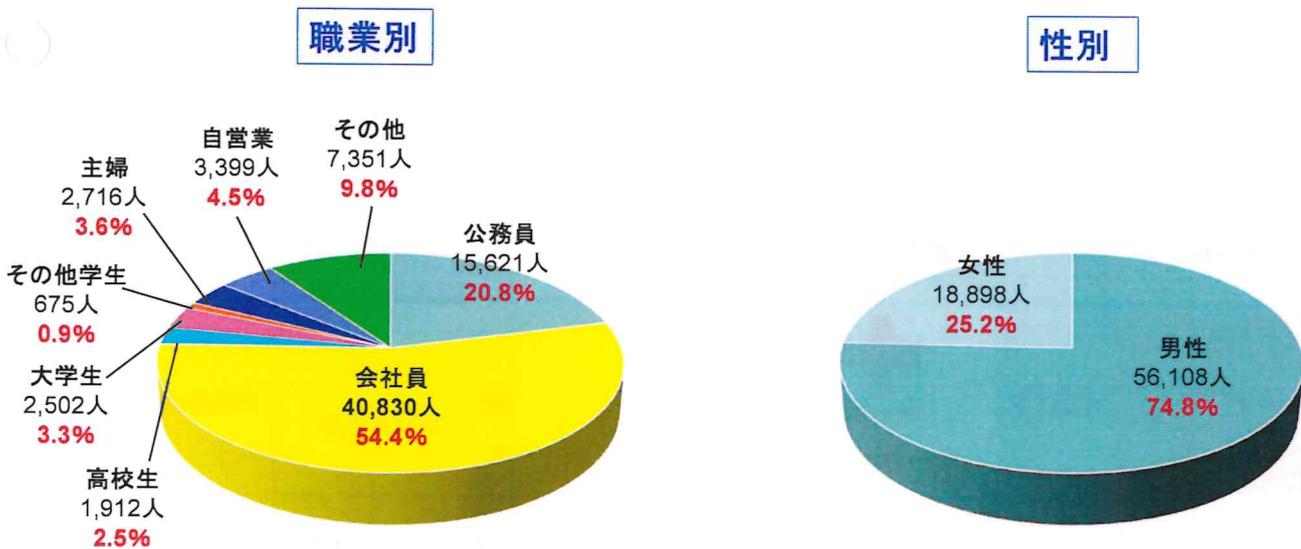
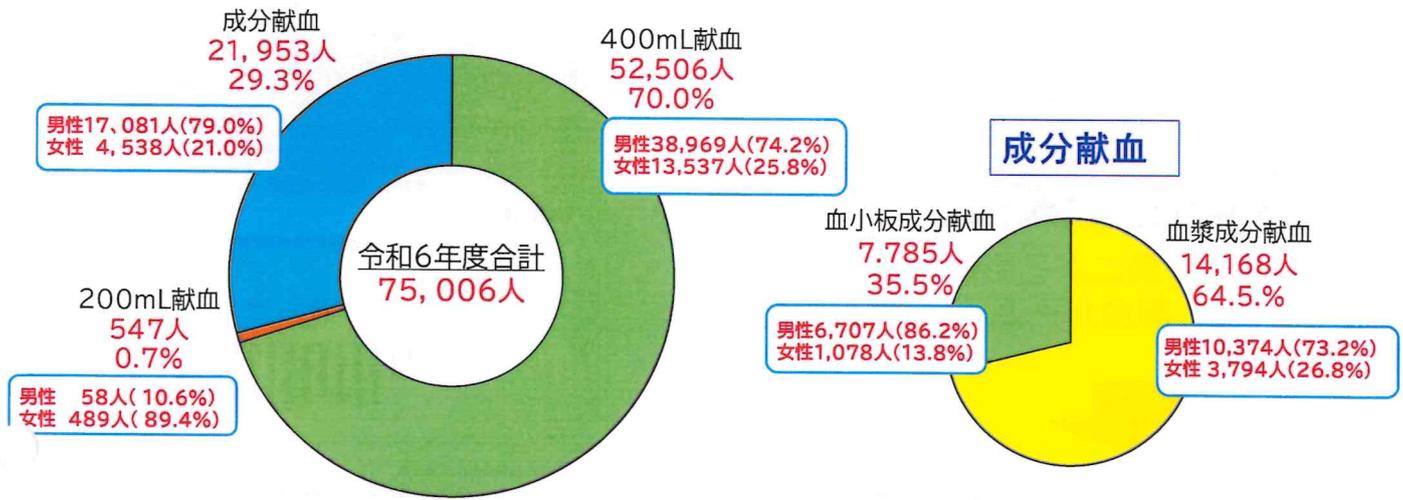
400mL献血は横ばい、成分献血はやや減少傾向

会場別献血者数（県内：R7年度4～1月累計）



【参考：R6年度4～1月】

献血バス：29,504名(47.0%) / 日赤プラザ：15,775名(25.1%) / 下通り：17,546名(27.9%)



令和6年度献血者数  
75,006人

豪雨による影響



8/10~11の豪雨による影響で8月は  
献血バス4台、献血ルーム1稼働が中止  
献血受入出来ず



熊本県内で計画していた  
約300名分の献血不足！

インフルエンザ流行による影響

九州・沖縄では、赤血球製剤の供給量が増加し、インフルエンザなど感染症の流行拡大により、献血にご協力いただける方が減少しているため、ひとりでも多くの方の献血へのご協力を必要としております！

1月22日(水) 速報

赤血球製剤の供給数(折れ線)と全血献血量(棒)の過不足累計推移

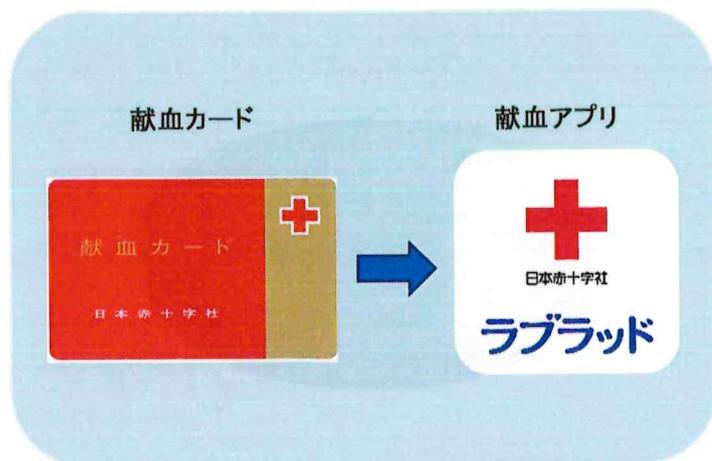
ご家族やご友人の方にも、献血へのご協力の呼びかけをお願いします

人間を救うのは、人間だ。



献血カードから献血アプリへ

令和8年1月5日より献血アプリでの運用となりました



献血Web会員サービス  
**ラブラッド**

アプリの活用をお願いします！

※アプリ運用イメージ

献血カード  
ケンケン メグルさん  
8200000050

次回献血可能日  
200ml 400ml 血漿 血小粉  
23/1/23 23/1/23 23/1/23 23/1/23

事前の間診回答  
・当日の朝5時から可能  
・反映までに15分かかります

血液検査の結果  
・過去の検査結果も確認可能

①若年層対策（年代別献血者に占める初回者の割合）

10代・・・50.4%、20代・・・11.2%、30代・・・3.6%

40代・・・1.4%、50代・・・0.6%、60代・・・0.2%

②複数回献血者の確保

400mL献血は年に男性3回以内、女性2回以内

成分献血は年間最大24回まで

③予約献血の推進

◦献血Webサービス「ラブラッド」新規会員の登録推進

◦アプリによる予約の推進

若年層対策①

学域献血の実施（令和7年度途中経過）

①高校献血

75校中37校で実施（実施率49%）

②大学献血

10校中8校で実施（実施率80%）

※熊本県立大学については、移動採血車を配車せず  
日赤プラザ献血ルームでのご協力

③専門学校等献血

医療系の専門学校を中心にご協力をいただく

※学校近くの献血会場に足を運んでいただくことも





献血セミナー

献血セミナー実績(R8.1末時点)

高校 12校  
大学 2校



県知事メッセージ入りチラシ



パティシエコースの生徒さんが作った  
お菓子をプレゼント

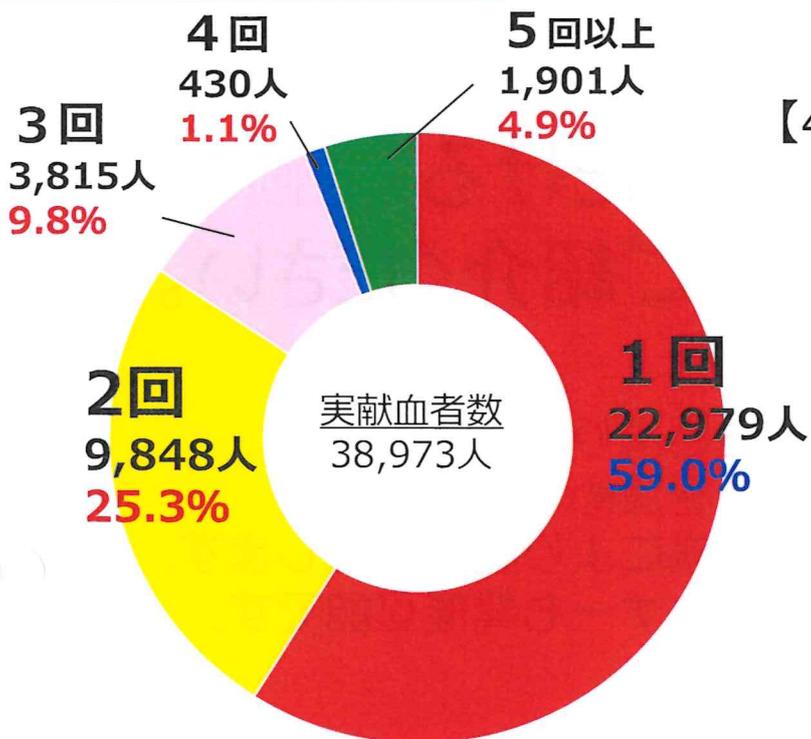
慶誠高校



農業科の生徒さんが栽培された  
野菜をプレゼント

菊池農業高校

## 複数回献血者の確保



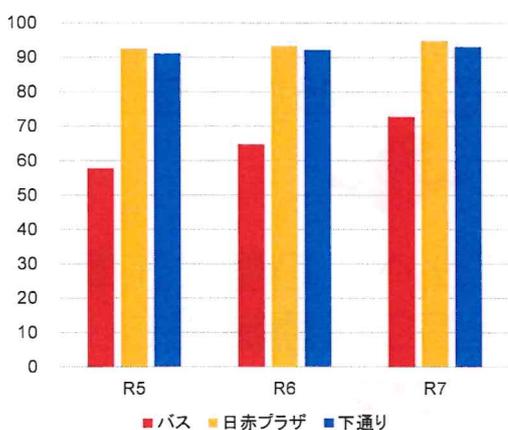
【400mL献血の年間実施回数】  
男性3回以内、女性2回以内

定期的なご協力をお願い致します。



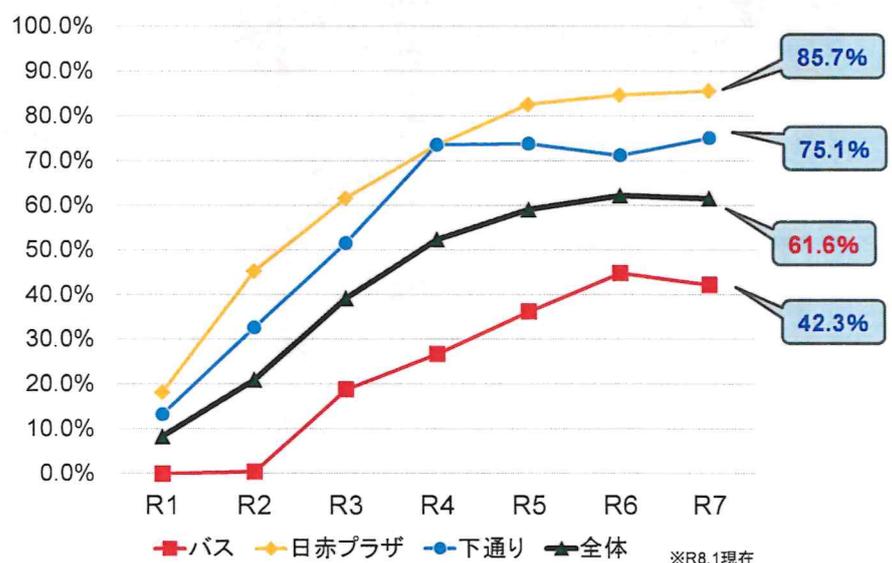
## 予約献血の現状

### ラブラッド会員率



R8.1現在  
会員数 54,376人

### 施設別予約率



※R8.1現在

## 献血にご協力いただける 企業・団体様をご紹介ください。

献血バスでのご協力はもとより、  
献血ルームにおいて期間を決めてのご協力等  
企業・団体様の規模・形態により調整いたします。  
企業・団体向けの献血セミナーも開催可能です。

15

### 〇型400mL献血の定期的なご協力を！

血液型不明の患者さんに  
緊急的な輸血をする際、  
〇型の赤血球製剤を  
輸血することがあります。

他の血液型に比べ、〇型の在庫を  
多く在庫を持つ医療機関も…

常に〇型は一定数の備えが必要

16

## 血球計数検査8項目

- 赤血球数
- ヘモグロビン(Hb)値
- ヘマトクリット(Ht)値
- 平均赤血球容積
- 平均赤血球Hb値
- 平均赤血球Hb濃度
- 白血球数
- 血小板数

## 生化学検査7項目

- ALT(GPT)
- γ-GPT
- 総蛋白
- アルブミン
- アルブミン／グロブリン比
- コレステロール
- グリコアルブミン

**皆さまの  
健康管理に  
お役立てください！**



## スマホアプリで医療費抑制？ 天草市導入の「健康アプリ」好調 独自の地域通貨支給でやる気引き出す

熊本日日新聞 2026年1月14日 11:45

熊本県天草市が導入したスマートフォン用健康アプリの利用が好調だ。2024年度から、熊本市などが使用している「もっと健康！げんき！アップくまもと」を導入。天草市独自の健康ポイント制度に比べ、利用者が急増したほか、アプリ利用者の医療費が安く抑えられる傾向も分かり、市は加入者を増やし医療費抑制につなげたい考えだ。

市は15年度から紙を使った自己申告型の健康ポイント制度を実施してきたが、アプリを導入した24年度の参加者は、紙の申告制度と合わせて前年度比1581人増の6513人。市健康増進課は「アプリで30～40代の参加者が一気に増えた」。

1日当たり千歩ごとに1ポイント（上限6ポイント）を付与。健康診断の受診や健康づくりイベントへの参加は高ポイントで、ポイント数に応じて、熊本県内の参加23市町村の特産品が当たる抽選に参加できる。獲得ポイントのランクが上がるほど商品が豪華になり、利用者のやる気を引き出す仕組みだ。

さらに、天草市は独自に獲得ランクに応じてデジタル地域通貨「天草のさりー」で千円～5千円を支給。25年度は高ポイント獲得者が当初の想定より多く、支給総額を約200万円増の1700万円程度と見込む。

市によると、24年度の市内のアプリ利用者のうち、国民健康保険加入者の1人当たりの年間医療費は平均36万2千円、アプリを利用していない人を含む国民加入者の平均より6万2千円安かった。「アプリ開始後に、健康診断に行き始めた人もおり、効果は大きい」と同様、市の国民加入者の1人当たりの医療費は高齢化で上昇傾向が続いており、「若い時からの健康づくりと病気の早期発見で医療費抑制につなげたい」としている。（野方信助）



あまくさ福祉まつりで天草市が設けた、健康ポイント制度のPRブース＝2025年10月、天草市（市提供）

## 令和 8 年度（2026 年度）熊本県献血推進計画（案）について

## 1 目的

この計画は、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」（昭和 31 年法律第 160 号）及び「第 8 次熊本県保健医療計画」に基づき、令和 8 年度（2026 年度）に献血により確保する血液の目標量を定めるとともに、献血の推進に関する計画を定めるものである。

## 2 計画の期間

令和 8 年（2026 年）4 月 1 日から令和 9 年（2027 年）3 月 31 日まで

## 3 令和 8 年度（2026 年度）熊本県献血目標の設定

本県では、県内の医療機関で使用される輸血用血液製剤の需要見込みを基に厚生労働省が設定した原料血漿<sup>しょう</sup>確保目標量を受け、次のとおり献血の目標量を設定し、計画的な献血の推進に努めることとする。

なお、献血の目標量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある 400 mL 全血献血及び成分献血の推進及び普及に努める。

また、献血の推進には市町村及び市町村献血推進協議会の役割が極めて大きいことから市町村ごとの献血目標を設定し、計画的で安定的な献血者の確保を図るものとする。

献 血 の 種 類		令和 8 年度（2026 年度）目標		令和 7 年度（2025 年度）目標	
		血液量(L)	献血者数(人)	血液量(L)	献血者数(人)
全血献血	200 mL 献血	143	716	122	611
	400 mL 献血	20,594	51,486	20,800	52,000
成分献血	血漿成分献血	8,344	14,290	8,158	14,091
	血小板成分献血	4,714	8,374	4,602	8,341
総 計		33,795	74,866	33,682	75,043

（表示単位未満四捨五入の処理をしているため、合計欄と一致しない場合がある）

## 4 献血の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

## (1) 献血に関する普及啓発活動の実施

より多くの県民に献血に参加していただくために、市町村、熊本県赤十字血液センター（以下「血液センター」という。）等の協力を得て、地域の実情に応じた啓発活動を行うことにより、献血への関心を高める。

特に、若年層（16 才～39 才）の献血者が年々減少しているため、若年層の献血への理解の浸透及び献血体験の促進に組織的に取り組むとともに、より効果的な啓発活動を行う。

また、県民に対し、献血の必要性や血液の利用実態等について、各種普及啓発活動を通じて正確な情報を伝える必要がある。

## ア 献血推進キャンペーン等の実施

（ア）愛の血液助け合い運動（7 月）

(イ) 学生クリスマス献血キャンペーン(12月)

(ウ) はたちの献血キャンペーン(1月及び2月)

イ パンフレット・啓発資材の作成配布

ウ 報道機関及び各種広報媒体による啓発

(ア) テレビ、ラジオ、ホームページ、SNS等での広報

(イ) 各種情報誌、市町村広報誌等への掲載

## (2) 若年層献血者の確保対策

ア 高校生を対象とした普及啓発

市町村、血液センター、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、学校での献血セミナーの開催、体験学習の実施等、高校生に対して献血に関する理解を深めるための普及啓発を行う。

また、「献血セミナー」等をきっかけとして献血に関心を持った献血未経験者等に、採血事業者が提供する献血Web会員サービス「ラブラッド」への登録を働きかける。

イ 学生献血推進ボランティアと協働した普及啓発

学生献血推進ボランティアの活動を支援し、育成を図るとともに、イベント会場等において協働し、献血に関する知識の普及及び献血の推進を図る。

(ア) 熊本県学生献血推進リーダー研修会の開催

(イ) 「学生クリスマス献血キャンペーン」、「はたちの献血キャンペーン」等のイベントによる献血啓発活動の実施

(ウ) 学内献血への応援

ウ 医療系の大学等への普及啓発

将来、医療従事者になろうとする者に、多くの県民の献血によって医療が支えられている事実や、血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらい、献血者の確保・定着を図る。

エ 小・中学校生を対象とした普及啓発

献血への理解を深めてもらうための取組を行う。

## (3) 企業等における献血の推進対策

企業等に対し、特に20代から30代までの従業員の献血促進について、企業対象献血セミナー等を開催し協力を求める。

## (4) 複数回献血協力者の確保

献血受付時に複数回献血への協力の働きかけや、平成30年(2018年)10月から運用開始された献血web会員サービスの登録及び利用を促すことにより、次回献血の予約等、複数回献血者への利便性を図る一方、血液センターから会員へメッセージ等を送信することにより、季節的な又は血液型別の血液不足を未然に回避する。

## (5) 献血功労者の表彰

献血運動の推進に関し積極的に協力し、模範となる実績を示した団体及び個人に対し、厚生労働大臣表彰等への推薦、知事感謝状の贈呈等を行い、献血への継続的な協力を得る。

#### 5 血液不足等緊急時における献血者の確保

血液センターは上記献血 web 会員サービスの活用等、必要な措置を講じる。それでもなお、不足する場合は、輸血用血液製剤不足時の対応を定めた「血液不足等緊急事態における危機管理対応要項」に基づき、市町村及び関係機関と連携を取りながら、必要に応じて、「血液不足注意報」等の発令、緊急献血の実施等の対策を実施する。

#### 6 災害時等における献血者の確保

災害時等において、需要に見合った血液が確保され、又は献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう必要な措置を講じる。

- ( 1 ) 九州ブロック赤十字血液センター（久留米市）の一元管理による速やかな血液製剤の供給
- ( 2 ) 熊本県災害対策本部による血液製剤搬送手段の確保
- ( 3 ) 県と日本放送協会との間に締結した「放送要請に関する協定」に基づく献血協力依頼の放送の実施、市町村の協力による臨時献血の実施等による献血者の確保
- ( 4 ) 新興・再興感染症のまん延下の状況であっても、安心・安全な献血環境の保持と献血者への感染症防止策の実施